

液体処理技術の細胞診断用に子宮頸部検体を最大に得るには、採取器具を液体培地に入れておく必要がある

## Keeping Collecting Device in Liquid Medium Is Mandatory to Ensure Optimized Liquid-Based Cervical Cytologic Sampling

### 要約

#### 目的

液体処理技術による細胞診断で検体の採取器具を培地に入れておかない場合の影響を検討する。検体材料の損失は、同じ1子宮頸部検体を2つの検体に分けて算出した。ひとつの検体は、採取器具を1本のバイアルのなかですすいで作製し、もうひとつの検体は、採取器具を1本のバイアルの中に放置するだけで作製した。これら2つの検体で子宮頸部検体成分の均一性を評価した。

#### 材料と方法

材料の損失は、G（5名の婦人科医）とR（最初のバイアルにおけるすすぎの際の回転数）の2項目を二元配置分散分析により算出して得た。2つの検体からスライドを作製し、子宮頸部の細胞集団を計数した。

#### 結果

全体的として、採取器具をバイアルに放置したままの検体では、細胞材料の37%が損失した。材料の損失は、婦人科医によって異なった。強くすすぐほど損失は減少するが、損失がゼロになることはなく、損失度合も予想できない。放置したままの検体では、しばしば多量の子宮頸部の細胞集団が含まれていた。

#### 結論

液体処理技術による細胞診断で採取器具をバイアルに放置する方法は、従来の塗抹標本作製法の欠陥の1つを再現することになる。細胞材料の損失は子宮頸がんの検出に影響を及ぼす可能性があり、これはさらに研究する必要がある。